

2024年3月29日

各位

株式会社富山第一銀行

北星ゴム工業株式会社との
「ファースト・ポジティブ・インパクト・ファイナンス」の契約を締結

株式会社富山第一銀行（頭取 野村 充）は、北星ゴム工業株式会社（代表取締役社長 米屋 慎一）を評価対象とした「ファースト・ポジティブ・インパクト・ファイナンス」の契約を締結いたしましたのでお知らせします。

本サービスを通じて、取引先の企業活動における環境・社会・経済の3つの側面に対して、インパクトを包括的に特定・分析し、ポジティブインパクトが期待できる活動と、ネガティブインパクトを低減する活動を支援いたします。

今後も、お客さまに「寄り添う」銀行として、持続可能な社会の実現に向けた企業活動を通じたSDGsの達成に寄与することで、さらなる信認につなげます。

記

1. 商品概要

本商品は、企業活動が経済・環境・社会に与えるポジティブ並びにネガティブな影響をポジティブインパクト金融原則に基づき特定し、ポジティブインパクト（プラスの影響）を拡大、ネガティブインパクト（マイナスの影響）を緩和することでSDGs達成を目指すファイナンスの取組です。当行は、インパクトに対する企業活動の影響・取組を包括的に分析・評価を行います。これらのインパクトに対するKPI（重要業績評価指標）についてお客さまとともに設定し、達成状況や取組状況について、定期的にモニタリングし、達成に向けて支援を行ってまいります。客観性を保つため当行が実施した評価について株式会社格付投資情報センターより第三者意見を取得しています。

2. 融資概要


契約締結日	2024年3月29日
借入人	北星ゴム工業株式会社
融資金額	200百万円
資金使途	運転資金
モニタリング期間	3年

※株式会社格付投資情報センター（R&I）のセカンドオピニオンは、下記URLをご参照ください。
<https://www.r-i.co.jp/rating/esg/index.html>

3. 評価企業概要 北星ゴム工業株式会社

代表者	代表取締役社長 米屋 慎一
本社所在地	富山県黒部市岡 362-14
事業内容	工業用ゴム製品製造
設立年月	1930年7月

4. SDGs 達成に向けた取組事例（詳細は評価書をご参照ください）

取組内容	高品質な工業用ゴム製品の流通量拡大
インパクトの種類	社会面におけるポジティブ・インパクトの拡大 経済面におけるポジティブ・インパクトの拡大
インパクト・カテゴリ	「住居」「包括的で健在な経済」
関連SDGs	 
対応方針	全国を対象として、建築・建材分野における当社部品の流通量拡大を図る
KPI	2026年7月期までの毎期、建築・建材部門売上高を前期比3%以上増加させる（2023年7月期 建築・建材部門売上高…1,626百万円）



株式会社富山第一銀行
黒部支店長 水野 伸之助

北星ゴム工業株式会社
代表取締役社長 米屋 慎一 氏

【本件に関する問い合わせ先】
法人事業部：西林（にしばやし）
TEL 076-461-3871

ポジティブ・インパクト・ファイナンス評価書

評価対象企業：北星ゴム工業株式会社



2024年3月29日

株式会社富山第一銀行

目次

1.はじめに.	2
2.会社概要.	3
(1) 企業概要	
(2) 基本理念	
(3) 沿革	
(4) 組織図	
(5) セグメント構成	
(6) バリューチェーン	
3.事業概要.	7
(1) 自動車分野	
(2) 建築・建材分野	
(3) その他	
(4) 当社技術	
(5) 製造工程・保有設備	
4.品質管理・環境管理	16
5.職場環境・地域貢献活動.	20
6.インパクトの特定.	23
(1) インパクトレーダーによるマッピング	
(2) インパクトカテゴリーに対応する SDGs ゴール	
(3) 日本におけるインパクトニーズの確認	
(4) 富山県の政策・戦略の確認 ～富山未来創生戦略との確認～	
(5) インパクトの特定	
(6) 特定したインパクトと富山第一銀行との方向性の確認	
7.KPI の設定.	29
8.管理体制とモニタリング	32

1. はじめに

富山第一銀行は、北星ゴム工業株式会社に対してポジティブ・インパクトファイナンスを実施するにあたって、同社の企業活動が、環境・社会・経済に及ぼすインパクト（ポジティブな影響及びネガティブな影響）を分析・評価した。

分析・評価にあたっては、国連環境計画金融イニシアティブ（UNEP FI）が提唱した「ポジティブ・インパクト金融原則」および ESG 金融ハイレベル・パネル設置要領第 2 項（4）に基づき設置されたポジティブインパクトファイナンスタスクフォースがまとめた「インパクトファイナンスの基本的な考え方」に則った上で、北星ゴム工業株式会社の企業活動における包括的なインパクトを分析した。

富山第一銀行は、本評価書で特定されたポジティブ・インパクトの拡大とネガティブ・インパクトの緩和に向けた取組を支援するため、北星ゴム工業株式会社に対し、ポジティブ・インパクト・ファイナンスを実行する。

資金調達者の名称	北星ゴム工業株式会社
調達形態	証書貸付
契約期間（モニタリング期間）	2024 年 3 月 29 日～2027 年 3 月 29 日
金額	200 百万円
資金使途	運転資金



2. 会社概要

(1) 企業概要

社名	北星ゴム工業株式会社
代表者	代表取締役社長 米屋 慎一
本社	富山県黒部市岡 362-14
工場・営業所	<入善工場> 富山県下新川郡入善町木根 66 <テクニカルセンター> 富山県黒部市岡 362-14 <東京営業所> 東京都港区芝浦 3-12-6 国際芝浦ビル 4F <名古屋営業所> 愛知県名古屋市昭和区阿由知通 4-13 朝日生命名古屋東ビル 2F <大阪営業所> 大阪府大阪市中央区北浜 2-1-23 日本文化会館ビル 5F
創業年月	1930年7月
設立年月	1930年7月
事業内容	工業用ゴム製品製造
資本金	61百万円
売上高	6,454百万円(2023年7月期)
従業員	390名(2023年7月31日時点)
建設業許可	富山県知事許可(般-27)第12958号
マネジメントシステム	ISO9001、ISO14001
所属団体	日本ゴム工業会、建築ガasket工業会

(2) 基本理念

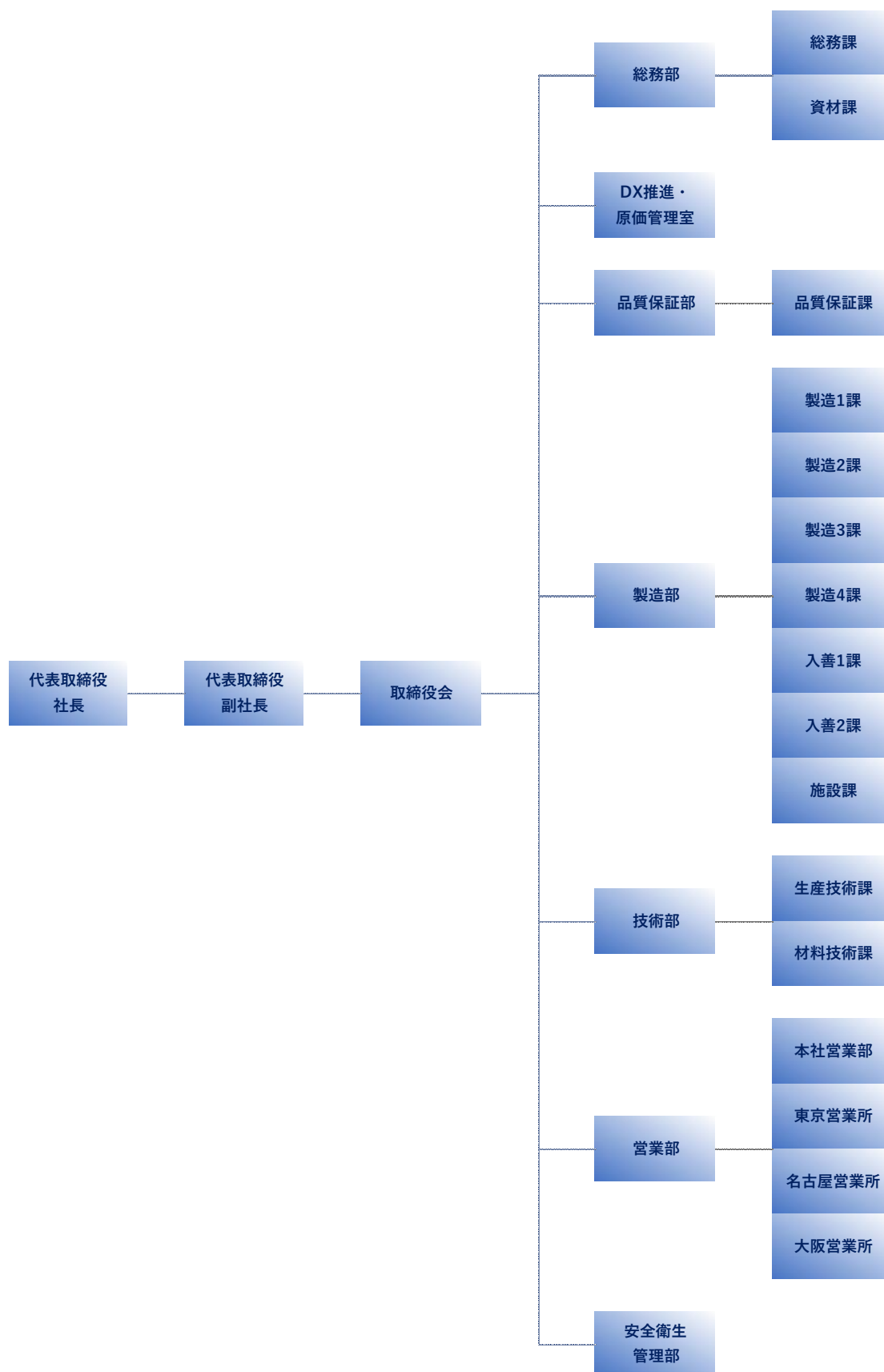
「良い製品は、品質・コスト・人材が三位一体となった良い経営環境から生まれる」マーケットイン至上主義による経営基盤の確立を目指し、常に時代に即応できるよう努めていく。



(3) 沿革

1930年	北星ゴム生地工場の名称で創業 総ゴム履物一般の生産を開始
1948年	北星ゴム工業株式会社として履物部と工業用品部を設置
1960年	JIS 許可工場となる 安全標識筒（セフティラバコーン）を発売
1972年	総ゴム履物部を廃止、全面的に工業用ゴム製品に転換
1974年	日本プラントエンジニア協会、社団法人日本能率協会より PM 優秀事業場賞を授与
1976年	建材用ゴム製品の生産を開始
1986年	本社工場を黒部市岡に建設、移転
1989年	建材試験棟を建設
1990年	事務棟を建設
1992年	第2工場を入善町木根に建設
1993年	三位一体活動を導入（PM・QC・TPC）
1997年	国土交通省より乙種防火戸用難燃性 CR ゴムガスケットの指定書を受領 （認定 No.乙種防火戸第 1712 号）
1998年	国土交通省より耐火環状目的ガスケットの指定書を受領 （Pca 版用指定番号 WN1196・C2116・G2106）
2003年	テクニカルセンターを建設
2004年	マネジメントシステム（ISO9001、ISO14001）を認証取得
2007年	経済産業省「2007 年度版元気なモノ作り中小企業 300 社」に選定 セフティラバコーンの生産を移管
2009年	コーポレートブランド『HOKUSAY』を導入
2011年	新厚生棟を建設
2018年	本社倉庫を建設 グッドカンパニー大賞 優秀企業賞受賞

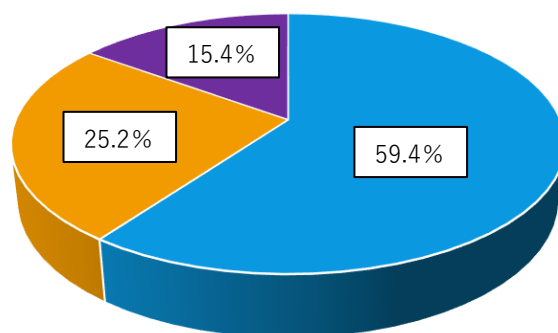
(4) 組織図



(5) セグメント構成

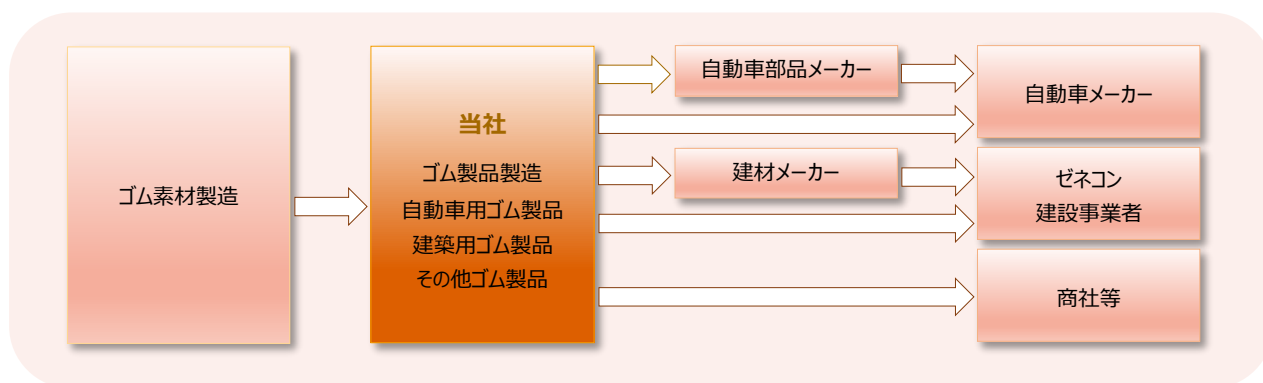
セグメント	細目	割合
自動車分野	ウェザーストリップ、ホース 等	59.4%
建築・建材分野	カーテンウォールガスケット、ジッパーガスケット 等	25.2%
その他	ダム・トンネル等のカルバート用パッキン、水密パッキン 等	15.4%

※2023年7月期



■ 自動車分野 ■ 建築・建材分野 ■ その他

(6) バリューチェーン



3. 事業概要

(1) 自動車分野

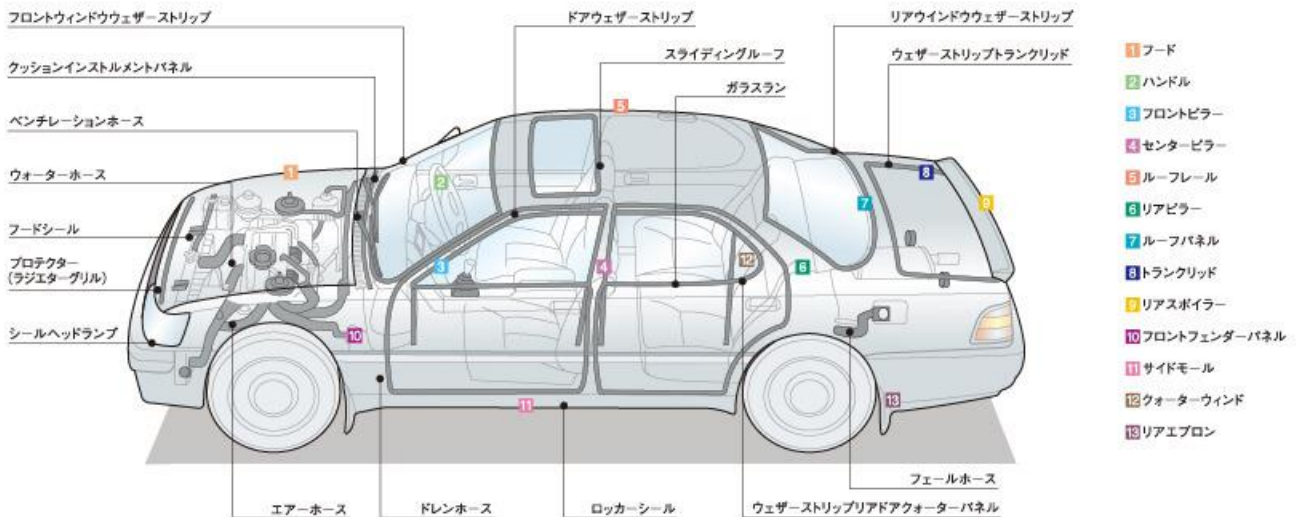
乗用車には、用途にあった多くのゴム部品が採用されており、大きく「ウェザーストリップ部品」と「ホース部品」の2種類に分類される。



ウェザーストリップ部品はボディの隙間を埋めるもので、気密性を確保することで水・音・埃の侵入を防ぎ、ドア開閉時の衝撃を吸収する、振動を防止する等の機能をはたす。また車の外観を向上させるという役目もある。

ホース部品は乗用車の基本性能を支える機能部品であり、例えばエンジンルーム内のベンチレーションホース等は限られたスペースに納めるため、屈曲や排気管の輻射熱等への耐性が必要となるなど、様々な性能が求められる。

当社が手掛ける乗用車用ゴム部品は、配合設計から始まり、加工技術、表面処理技術の経験とノウハウにより、様々な車両の安全性と諸性能の維持を担っており、品質管理の行き届いた精度の高い製品を送り出している。



また、地球環境保護の一環として、資源リサイクルを目的とした廃材の分別に貢献できるよう、一部の車種に採用されたドアウェザーストリップは、分解時もスムーズな乾式取付型で、ドアにセットするプラスチックの接合ピンはストリップ部全体のゴムとの分別を可能にしている。



【ボディ廻り】

- ・ラジエーターグリルシール
- ・シールフード
- ・ドアウェザーストリップ
- ・モールディング
- ・プロテクター
- ・ロッカーシール



【ランプ廻り】

- ・エンドラバー
- ・シールラバー



【ガラス廻り】

- ・ウィンドダム
- ・クォーターシール
- ・スライディングルーフ
- ・クッションインストルメントパネル
- ・窓枠



【エンジンルーム】

- ・ラジエーターホース
- ・エアクリーナーホース
- ・ターボエアーホース
- ・ベンチレーションホース
- ・プロテクタ類（ソリット、スポンジ）

(2) 建築・建材分野

当社では、数々の大型物件や住宅サッシメーカーへの機密ゴム等の提供を行っており、長年の試験データと経験をマニュアル化し、お客様のご希望に合わせた最適な設計・ご提案を行えることが強みである。

建設用ゴムに求められる諸性能を確保するためには、安全性はもちろん、室内環境に関わる水密・気密・断熱など、プロジェクト毎の素性と形状への対応が要求される。

【当社製品が使用されている建築物】



東京ワールドゲート



清水建設



東京国税局

【ジッパーガスケット】

ゴムのみでガラスをつかみ支えるジッパーガスケットは、ガラスの厚みや構成する面の角度や設置場所により、様々な形状と機能を付加することができる（ガラス溝に溜まった結露水を貯めて流す経路を付加するなど）。

【ガラスグレイジング】

アルミサッシやカーテンウォールなど、建築開口部のフレームや構造体を介してガラスを支えるガラスグレイジングは、ガラスへの熱や圧力による層間変位の追従を助けることを目的とし、施工性の向上はもとより、建物の寿命を高める形状や素材への工夫が成されている。

【レインバリア・ウィンドバリア】

建物の高層化が進むと共に、外装工事におけるガラスカーテンウォールはユニット化が標準となり、様々な構法が開発・実施され、そのユニット間のジョイント部には、水密を保つレインバリアと機密を確保するウィンドバリアが、様々な形状と素材を持って外壁としての性能を確保すべくセットされている。

【目地ガスケット】

ガラスを主材としない建物の外装材においても、タイルやサッシを打ち込んだプレキャストコントロールによるユニット化の外装仕上げに必要となる目地ガスケットは、水密性と気密性を考慮した接合部の緩衝材としての施工精度と長期に亘る耐久性を保つための素材の複合化が進んでいる。

【緩衝ガスケット/エキスパンション】

金属と金属の接合や建物の意匠性・可変性を高めるなど、建物の部材を繋ぐ緩衝ガスケット、エキスパンションは、多くの役割を担っている。

(3) その他

ダム、トンネルなどのカルバート用パッキン、水密パッキンやコンクリート伸縮目地などの土木工事、空港滑走路の伸縮目地や支承ゴム、新幹線の乗車口扉のシール材から電車レール用融雪マットなどの交通機関、エアコン用断熱プロテクタ、床暖房用ホース、パソコンやOA機器のロール部品などの工業品まで、当社が設計・製造したゴムが活躍する場面は多岐に亘る。



空港滑走路 目地材



新幹線乗車口扉 シール材

(4) 当社技術

お客様から要求されるゴムの機能、形状は多様であり、使用する素材も EPDM、天然ゴム、クロロブレンゴム、シリコンゴム、アクリルゴムなど様々である。当社では、ゴム素材に対する深い知見と高度な加工技術を基盤として、常に新しい工業用ゴムの開発、提案を行っている。総合技術力の結集によって、市場ニーズに対応するだけでなく、先取りした高品質な工業用ゴム製品の製造を可能にしている。

自社配合設計に始まり、製品の要求性能の検証、設計検証を行い、お客様の満足いく製品開発をサポートしていく。

【開発工程】

①開発会議

開発するゴム製品に求められる性能をあらゆる角度から検討



②製品設計

性能を実現するための素材や形状を決め、加工方法等を検討



③システム設計

生産コストの低減を図るためにシステムエンジニアリング開発を進める



④試作設定

ラインの流れや品質を考慮した上で試作品の設計を行う



⑤製品試作

設計者と技術者が協力しながら試作を繰り返す



⑥試験

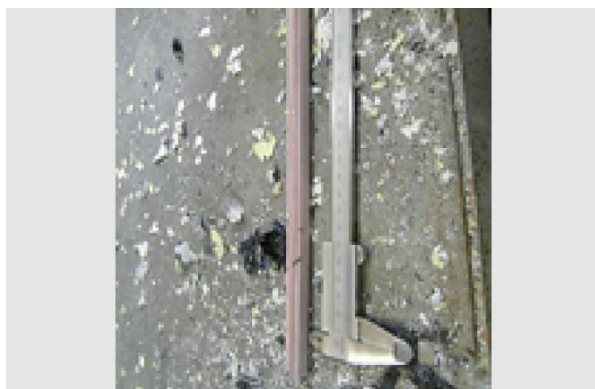
設計した性能値をクリアしているか、各種試験を実施する



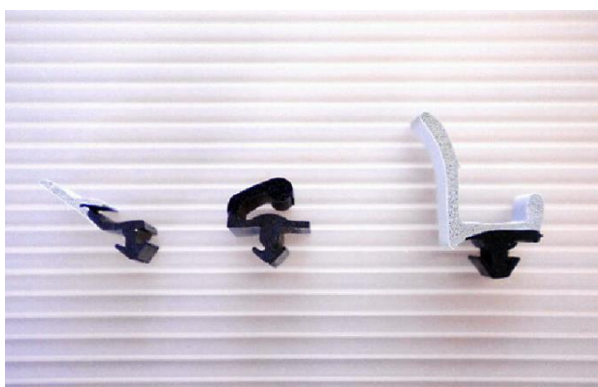
【開発事例】



表面活性ゴム（ピアスライム）



焼結性ゴム（燃焼後形状保持）



低伸張性ゴム



導電性ゴム



形状記憶スポンジゴム

(5) 製造工程・保有設備

ゴムの性質としては、「よく伸びる」「元の形に戻る」「弾む」などが挙げられるが、原料ゴムからこのような性質があるわけではなく、いくつかの加工工程を経て、弾性を持つ「ゴム」となる。配合によって用途に適合した特性を出すことで、多くの種類のゴムが作られている。

【部門別工程】

①配合部門

製品の用途や求められる性能に応じて、原料ゴムと配合剤を選択。工業用ゴム製品は種類が多く、使用条件も様々であり、当社ならではの経験と実績をベースに、要求性能を満たすように各種配合剤（加硫剤、加硫促進剤、老化防止剤、補強剤、軟化剤、可塑剤、発泡剤、難燃剤など）の薬品の配合率を決める。



②精練部門

材料ごとの温度管理、品質管理のもと、決められた配合率に基づいて原料ゴムに配合剤を加えて精練。複数の配合剤を混ぜ合わせ均一に練り込む技術が不可欠であり、当社では専用の混合機によって配合剤を細かく分散させることができ、製品に合わせて量を調整する技術を有する。



③押出部門

精練された材料を型材により仕様図通り押し出す。押し出し後の加硫工程にて、加熱による硫黄の化学反応により、ゴム材に要求される性能が与えられる（粘性体から弾性体へ変化）。



④成型部門

加硫したゴムは、冷却された後、製品群により切断工程、接続工程、バリ除去工程などに振り分けられ加工される。



⑤ホース部門

製品の形状に沿ったマンドレルと呼ばれる芯金にゴムチューブを挿入し加熱する。



⑥検査部門

寸法、加工精度など、様々なチェックを一品一品、丹念に人の手と目で行われる。併せて製品の性能試験も実施する。



【保有設備】

設備名	本社工場	入善工場
押出機械	26 ライン	7 ライン
ロール機械	15 基	1 基
グリップ挿入機	9 基	7 基
カット機（フジエースタイプ）	13 台	4 台
〃（ハギノタイプ）	13 台	5 台
〃（北星式タイプ）	10 台	なし
油圧成形機	46 台	15 台
ハイドロ成形機	46 台	107 台
インライン塗装装置	3 ライン	7 ライン
静電塗装設備	なし	1 基
加硫釜	18 基	なし
オーブン	5 台	1 台
ニーダーミキサー	3 基	1 基
バンバリーミキサー	2 基	なし

4. 品質管理・環境管理

【品質・環境方針】

品質・環境方針

北星ゴム工業株式会社
代表取締役社長 米屋 慎一

品質・環境方針

「品質至上」「後工程はお客様」の考えを全員が認識し、「各部門が連携」して顧客の信頼と満足を得る良い製品を提供するとともに、全員でマネジメントシステムの有効性の継続的改善に取り組む。

また、全員が人類にとってかけがいのない地球環境を守ることの大切さを理解し、その業務である自動車・建材・土木交通・一般工業用ゴム製品の設計及び製造、それらに関する業務を通じて環境への負荷を軽減し、ひいては人類社会の持続的な発展に寄与することを念願し、行動する。

1. 環境関連の法律・規則・規制及び当社が同意する協定・契約等を順守し、一層の環境保全及び環境汚染の予防に取り組む。
2. 事業活動を通じ環境負荷を減らすため、下記の重要課題に取り組む。
 - 1) 産業廃棄物の削減
 - 2) 省エネ、省資源の推進
3. 地域社会に貢献するために、社内外の環境美化活動に取り組む。
4. この方針を実行し成果を上げるため、環境教育を実施する。
5. 安心と信頼を勝ち取るために、この方針は一般にも公表する。

【ISO9001 認証取得】

ISO9001は、ISO（国際標準化機構）で1987年に制定された規格であり、顧客の立場から考慮され、製品の品質保証に加えて、顧客満足の向上をも目指し、製品やサービスの品質を保証するために仕事のやり方を定める仕組み（品質マネジメントシステム）となる。ISO9001規格の要求事項を満たす「製品及びサービス提供（業務実施）」の仕組みを構築、運用し、継続的に改善していく。当社は2004年2月、ISO9001を認証取得した。

<適用サイト>

本社、入善工場、東京営業所、大阪営業所、名古屋営業所

<適用範囲>

自動車・建材・土木交通・一般工業用ゴム製品の設計及び製造



【ISO14001 認証取得】

ISO14001 は、ISO（国際標準化機構）で 1996 年に制定された規格であり、組織活動、製品及びサービスの環境負荷低減といった環境パフォーマンスの改善を実施する仕組みが継続的に改善されるシステム、つまり環境マネジメントシステム（Environmental Management System,EMS）を構築するための要求事項が規定されている。当社は 2004 年 12 月、ISO14001 を認証取得した。

<適用サイト>

本社、入善工場、東京営業所、大阪営業所、名古屋営業所

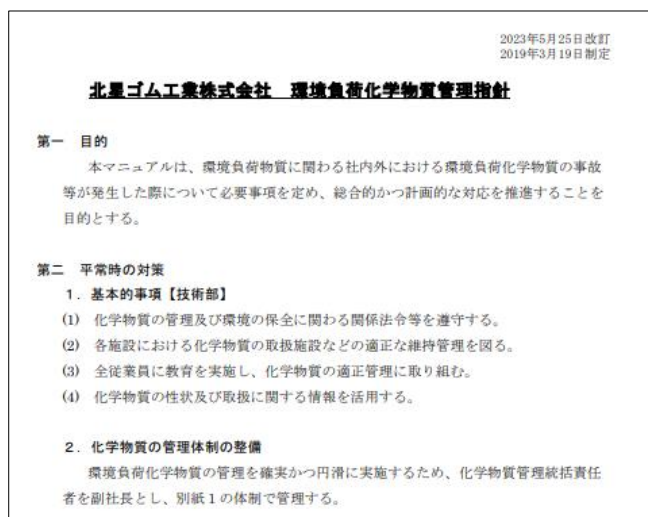
<適用範囲>

自動車・建材・土木交通・一般工業用ゴム製品の設計及び製造



【環境負荷化学物質管理指針】

社内外における環境負荷化学物質の事故等が発生した際に総合的かつ計画的な対応を推進することを目的として、必要事項をまとめた「環境負荷化学物質管理指針」を制定し、環境負荷化学物質の適正な管理・取扱いに努めている。



【コンフリクトミネラル調達方針】

コンゴ民主共和国（DRC）及び周辺9ヶ国で採掘される鉱物資源が、人権侵害、環境破壊等を引き起こしている武装勢力の資金源になっていることを懸念し、これらの使用を回避するため、得意先や納入先と協力し、サプライチェーンを遡り精錬業者を特定し、武装勢力の資金源となる鉱物を調達しない取り組みを実施している。

【DX推進委員会の運営】

当社では、2023年10月に社内で「DX推進委員会」を発足。当委員会は、各部門の若手社員を中心に構成され、DXを起点とした生産性向上や業務効率化、働き方改革、ペーパーレス化等に取り組んでいる。今後、当委員会を通じて多角的な議論を展開し、各種マニュアルの電子化（QRコード）や情報データの蓄積・活用など、具体的施策の実行に繋げていく。

<DX推進委員会 資料>

DX化推進委員会

○全社横断のDX化推進委員会を設立

・自薦or事務局からの推薦で、全部署より全32名の推進委員を選出

・日程計画

- ①部課長及びスタッフに対するDX講習会を開催…(全3回)
- ②各職場の朝礼に参加し、全従業員に対してDX化推進の説明を実施
- ③社内プレキックオフ会
- ④全体キックオフ会
- ⑤コンサルティングによる部門インタビュー…全9回
- ⑥各チームによる部門毎の課題抽出
- ⑦コンサルティングによる現状可視化と課題整理
- ⑧各チームによる部門毎の課題整理発表会
- ⑨コンサルティングによるDX診断結果報告会
- ⑩各チームによるロードマップ及びDX戦略、ビジョンの案出し
- ⑪ロードマップの策定及びDX戦略、ビジョンの明文化
- ⑫ロードマップの策定及びDX戦略、ビジョンの決定2024年3月末

社内DX推進プロジェクト

○社内DX推進委員会活動報告会【2024/1/11】

・チーム毎に部門毎の業務フローの分析から課題の抽出を実施し、**DX化すべきテーマを取りまとめて発表…全社の課題を共有**

- Aチーム：営業部/技術部
- Bチーム：製造部
- Cチーム：品証部
- Dチーム：総務部/施設課



【エネルギー使用量、CO2 排出量、廃棄物量の把握】

本社工場および入善工場において、部署毎のエネルギー使用量等を把握し、異常値や削減余地について、都度確認・検討をしている。

【LED 照明の導入】

全社的にLED照明への切り替えを行うなど、省エネに関する取り組みを積極的に行っている。

【SDGs 宣言】

SDGs 宣言を行い、国連が提唱する「持続可能な開発目標」を推進し、持続可能な社会の実現に向け全社一丸となって取り組んでいる。



北星ゴム工業株式会社 SDGs宣言

全従業員の安全確保と働きがい向上を最優先に取り組み、強固な経営基盤を確立する

私たちは、国連が提唱する「持続可能な開発目標（SDGs）」を推進し持続可能な社会の実現に努めてまいります。

SDGs達成に向けた取り組み

重点課題	具体的な取り組み	SDGs
製品・サービス	<p>品質・安全性</p> <p>目標：立派な製品を世に送り出し社会に貢献する</p> <ul style="list-style-type: none"> ISO9001認証継続による質の高い製品・サービスの安定供給 お客様の課題解決に資する提案型営業の推進 リサイクル材をブレンドした環境配慮型製品の開発 	
環境	<p>環境マネジメント</p> <p>目標：地球環境の保全に全従業員で取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ISO14001認証継続による環境マネジメント体制の構築 グリーン調達ガイドラインや環境負荷化学物質管理指針の遵守および取引先への共有 GHG排出量削減に向けた多角的な取り組みの継続 	
人権・労働	<p>安全衛生 ワークライフバランス 人材育成</p> <p>目標：全従業員が安心・安全に働き続けられる職場環境の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎月の安全衛生委員会の内容充実等による、労働災害撲滅に向けた取り組みの強化 休暇制度の充実や時間外労働削減等による働き方改革の実現 能力に応じた公正な評価制度の導入および資格取得支援・各種研修制度の充実等による、能力開発の強化 	
社会・地域貢献	<p>社会貢献活動</p> <p>目標：地域貢献に繋がる活動の積極展開</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域のプロスポーツチームや教育機関等への各種支援 地元人材の積極採用による雇用の創出 地域企業との連携強化による地域経済の活性化 	

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

HOKUSAY
もっと向き合う、きっとこたえる。



5. 職場環境・地域貢献活動

【安全衛生】

当社では、毎月の安全衛生委員会の内容充実を図るなど、労働災害撲滅に向けた取り組みを強化している。引き続き、各種施策を通じて全従業員の安全確保を最優先に取り組み、強固な経営基盤の確立を図る。

<危険予知訓練 1日コース>

危険予知訓練1日コース2/27受講 製造部職長全員 43名 受講

災害0から危険0へリスクの先取り、安全衛生活動のKYT実践目的研修

<北星ゴム教育>

講習名:防火防災・消防訓練 新人対象 (総務課主催)
日時:2020年3月31日(水) 13:40~14:40
場所:本社工場棟、守衛室前
講師:上野課長 参加者:新人社員 6名

真剣に大きい声で消火訓練を実施、学生では経験できない防火防災の体験と訓練を実施し、防災意識が向上した。

体験後KYTにて真剣に討議

安全道場運営委員会(6名)設立し進める

【グッドカンパニー大賞】

<グッドカンパニー大賞について>

全国の中小企業の中から経済的、社会的に優れた成果を挙げている企業を選んで贈られる、国内で最も歴史と実績のある中小企業のための賞。

昭和42年以来、受賞企業は760社におよび、受賞後、多くの企業が発展を遂げ、国内の有力企業に成長している。

本賞の選考は、年1回、経済産業省、文部科学省、商工会議所、商工会、中小企業投資育成会社ならびに中小企業基盤整備機構の推進をもとに厳正な審査を通して行われる。



当社は2018年に、経営の刷新、技術開発、市場開拓、流通改革の分野において、特に顕著な成果をあげ、優れた内容を有する企業であって、最近3年間の業績推移が相当なものであり、今後も伸展が期待される、全国7地区（※）においてグランプリに準ずる優れた企業に贈られる「優秀企業賞」を受賞した。

（※）北海道・東北、関東、北陸・甲信越、東海、近畿、中国・四国、九州・沖縄

【人材育成】

<新入社員教育>

入社後10日間で、社会人としての基礎知識やビジネスマナーについて学び、以降はそれぞれの配属先でマンツーマン指導を行う。新入社員に対して、年齢の近い先輩社員が一人ずつ担当となり、日常業務の指導のほか不安や悩みなどの身近な相談相手となり、安心して仕事に取り組めるサポート体制を構築（メンター制度）。



<発表会>

チーム毎に品質向上やコスト削減などのテーマを決め、従業員一丸となり業務改善に取り組んでいる。毎月各職場で発表会が行われ、半期に一度、優秀チームによる全社発表会が開催される。



<女性活躍推進>

各部門における女性役職員登用（管理職等）の増加を図る。専門コンサルティング企業との連携による女性従業員向けセミナーの開催等を通じて、会社として多様な女性活躍を積極的に支援していく。

【福利厚生充実】

<厚生棟>

快適な職場づくりの一環として、食堂や売店、休憩スペースのほか、更衣室、お風呂（男性）、シャワールーム（女性）などを備える。食堂では、毎日味噌汁を無料提供している。



<休日・休暇>

週休2日制（年間休日115日）、慶弔・メモリアル休暇制度（誕生日休暇）など、従業員のワークライフバランスを考慮した休日・休暇制度の充実を図っていく。

【地域貢献活動】

<アクアフェアリーズ>

女子バレーボールクラブチーム（V1リーグ）である「KUROBE アクアフェアリーズ」のオフィシャルスポンサー（選手雇用企業）として、地元プロスポーツの活性化を支援。

<インターンシップ、14歳の挑戦の受入>

職業体験の機会を提供することで、地元の高校生、中学生の健全な成長に貢献していく。



6. インパクトの特定

(1) インパクトレーダーによるマッピング

当社のバリューチェーン分析の結果をもとに、主要・関連業務を特定し、UNEP FI が推奨するインパクトマッピングを実施し、ポジティブ・インパクト及びネガティブ・インパクトの分布を調査した。

当社の主要事業は、国際産業標準分類に則り、「その他のゴム製品製造業 2219)」を適用した。

分布図中の「◆◆」は重要な影響があるカテゴリー、「◆」は影響があるカテゴリーを示しており、当社の事業活動における「◆◆」「◆」の影響を検討する。

国際産業標準分類		川上の事業		当社の事業		川下の事業					
		【2013】		【2219】		【2219】		【2910】		【4100】	
インパクトカテゴリー		Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative
社会	水（入手）								◆◆		
	食糧										
	住居									◆◆	
	健康・衛生				◆		◆		◆◆	◆	◆
	教育										
	雇用	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆
	エネルギー									◆	◆
	移動手段								◆◆	◆	
	情報										
	文化・伝統										◆
	人格と人の安全保障										◆
	正義・公正										
強固な制度・平和・安定											
環境	水（質）		◆◆		◆◆		◆◆		◆		◆
	大気		◆		◆		◆		◆		◆
	土壌		◆◆		◆◆		◆◆		◆		◆
	生物多様性と生態系サービス										◆
	資源効率・安全性		◆		◆		◆		◆◆		◆
	気候		◆		◆		◆		◆◆		◆◆
	廃棄物		◆◆		◆◆		◆◆		◆		◆◆
経済	包括的で健全な経済	◆		◆		◆		◆		◆	
	経済収束							◆		◆	

自動車用、建材用等の工業用ゴム部品の製造を行う当社は、自動車部品メーカーや建材メーカー等を通じて製品・サービスを提供している。当社のバリューチェーン分析から、当社の川上の事業である「プラスチック及び合成ゴム素材製造業」、当社および当社の川下の事業である「その他のゴム製品製造業」、当社の川下の事業である「自動車製造業」「建築工事業」に対応するインパクトカテゴリーの内、インパクトマッピングにおいて、当社事業と関連性の高いインパクトカテゴリーを中心に検討する。

当社事業と関連性の高いインパクトカテゴリーの内、特に影響が大きいと考えられるインパクトカテゴリーは、ポジティブでは「住居」「移動手段」、ネガティブでは「水（質）」「土壌」「廃棄物」が挙げられた。一定の影響があると考えられるインパクトカテゴリーは、ポジティブでは「雇用」「包括的で健全な経済」、ネガティブでは「健康・衛生」「雇用」「大気」「資源効率・安全性」「気候」が挙げられた。

尚、「水（入手）」「エネルギー」「文化・伝統」「人格と人の安全保障」「生物多様性と生態系サービス」「経済収束」は、当社事業と関連性が低いカテゴリーとして、分析対象としない。

当社が製造する工業用ゴム製品は、自動車部品メーカーや建材メーカー等を通じて、乗用車や商業施設、一般住宅等に使用されている。要求されるゴムの機能、形状、素材は多様であり、高品質な工業用ゴム製品の製造には、高度な技術力・開発力が必要となる。サプライチェーンにおいて、当社の経験に培われた技術力、ゴムの可能性を追求する開発力は必要不可欠となり、「包括的で健全な経済」のポジティブ・インパクトの増大に貢献している。

自動車分野では、乗用車用のウェザーストリップ部品、ホース部品を多岐に亘り製造している。配合設計、加工技術、表面処理技術の経験とノウハウにより、様々な車両の安全性と諸性能の維持を担い、乗用車の安定供給に寄与していることから、「移動手段」のポジティブ・インパクトの増大に貢献している。

建築・建設分野においては、商業施設や一般住宅に使用されるジッパーガasket等を製造している。建設用ゴムには、室内環境に関わる水密・気密・断熱性を確保するため、物件毎の素性と形状への対応が要求され、当社では要求に応じた最適な設計・提案を行っている。昨今の建築物は、環境性能を追求する傾向にあり、高品質な当社の部品が一般住宅の安定供給にも繋がることから、「住居」のポジティブ・インパクトの増大に貢献している。

尚、高い環境性能を有する建築物が供給されることは、SDGs への貢献度が高いことなどから、建築・建設分野の更なる売上拡大を図っていく方針である。

環境管理の面において、工場稼働により二酸化炭素や産業廃棄物の排出等を伴うが、サプライチェーン全体で脱炭素の動きが更に進むことが想定されるなど、環境負荷軽減に資する取り組みの強化は、社会的使命であることは勿論、事業活動の維持・向上の観点からも必要不可欠となる。

当社では、ISO14001の認証取得、環境負荷化学物質管理指針（※グリーン調達ガイドラインに基づく化学物質の調達方針や化学物質の管理方法、環境保全に関わる関係法令の遵守等についての会社の方針を定める）の策定・運用、コンフリクトミネラル調達方針の策定・運用、エネルギー使用量・CO2排出量・廃棄物量の把握、SDGs宣言等を通じて、環境負荷軽減に積極的に取り組んでおり、「大気」「土壌」「資源効率・安全性」「気候」「廃棄物」のネガティブ・インパクトの抑制に努めている。

ゴム製品製造業は、加硫工程等での多くのエネルギー使用に伴いCO2排出量が高水準であることや、原材料として使用するゴムの総量に対する廃棄ゴムが相当量になることが、業界全体で課題として挙げられている。そうした状況の中、当社としてもCO2排出量削減目標の設定および実現、廃棄ゴム量の削減など、業界全体の課題に対して更なる取り組みの強化を図っていく。

雇用においては、安定雇用による生計へのポジティブ・インパクトがある一方、労働者の健康面と安全性のリスクがネガティブ・インパクトとなる。当社では、安全衛生委員会の充実など労働災害撲滅に向けた取り組み、女性活躍推進など多様な人材の活躍に向けた取り組み、従業員ニーズを捉えた福利厚生の実施等を行うことで、「雇用」のポジティブ・インパクトの増大およびネガティブ・インパクトの抑制に努めている。

引き続き、各種施策を通じて全従業員の安全確保を最優先に取り組んでいくとともに、多様な人材が活躍できる組織体制の構築を図っていく。

(2) インパクトカテゴリーに対応する SDGs ゴール

当社の売上高は全て日本における事業であり、日本の SDGs ダッシュボードから当社のインパクトとの関係性について確認する。今回特定したインパクトと関連の高いSDGsのゴールは下記となる。



(3) 日本におけるインパクトニーズの確認

持続可能な開発ソリューションネットワーク (SDSN) に掲載されている日本のダッシュボードによると、大きな課題が残る項目が「赤色」、重要な課題が残る項目が「橙色」、課題が残るのが「黄色」、目標達成が「緑色」となる。

今回特定したインパクトと対応する SDGs のゴール 6 項目のうち、3 項目が大きな課題が残る、1 項目が重要な課題が残る、1 項目が課題が残る、1 項目が目標を達成した項目である。日本に課題が残る項目が 6 項目中 5 項目該当していることから、日本における当社のインパクトは重要度が高いと判断する。



(出典：SDGs ダッシュボード)

(4) 富山県の政策・戦略の確認 ～富山未来創生戦略との確認～

富山県は、約 4,248 km²の広さを有し、医薬品や機械、電子部品等を中心としたものづくり産業が盛んな日本海側有数の中核都市として発展してきた。水深 1,000mの「海の幸の宝庫」富山湾から 3,000m級の北アルプス立山連峰まで、自然豊かな多様な地勢を誇り、広大な森林面積や全国有数の水力資源、地熱資源に恵まれ再生可能エネルギーのポテンシャル（潜在可能性）が高いことも特徴である。

人口減少、少子・超高齢社会が進行する中、このような地勢を背景として、富山県では本県の自然、文化産業など各地域の特色、強みを活かした持続可能で活力ある未来を想像するため、平成 27 年 10 月から「とやま未来創生戦略」を、令和 2 年度から「第 2 期とやま未来創生戦略」を策定した。

第 2 期とやま未来創生戦略は、基本目標 1. 結婚・出産・子育ての願いが叶う環境整備、基本目標 2. 産業振興、若者等の雇用創出、観光振興、県内への移住促進、基本目標 3. 若者・女性・高齢者など多様な人材の確保と労働生産性の向上、基本目標 4. 活力のあるまち・健やかな暮らし・未来を担う人づくりを掲げている。

基本目標 2 の①産業・地域経済の活性化について、当社は工業用ゴム製品製造の分野において技術開発や市場開拓において顕著な成果（2018 年グッドカンパニー大賞 優秀企業賞受賞）を挙げるなど、富山を代表する企業として産業・地域経済の活性化に大きく貢献している。

また、職場環境の面では、人材育成（新入社員教育、女性活躍推進等）やインターンシップ、14 歳の挑戦の受け入れなど、多様な人材の活躍の支援に積極的に取り組んでおり、基本目標 3 の①若者や女性が輝いて働ける環境づくり、④多様な人材の確保・育成と労働生産性の向上等に寄与している。

その他、当社の事業活動は多面において富山県の戦略に対して大きな役割を担っているといえる。

基本目標 1 結婚・出産・子育ての 願いが叶う環境整備	基本目標 2 産業振興、若者等の雇用創出、 観光振興、県内への移住促進	基本目標 3 若者・女性・高齢者など多様な 人材の確保と労働生産性の向上	基本目標 4 活力あるまち・健やかな暮らし・ 未来を担う人づくり
<p>① 結婚から子育てまで切れ目のない支援による少子化対策の推進</p> <p>(ア) 結婚・妊娠・出産支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○結婚を希望する男女の出会いの場の提供 やライフプラン教育の充実 ○若者・女性を中心とした移住・Uターンへの促進 ○妊娠、出産、健やかな子どもの成長のための環境整備 <p>(イ) 家庭・地域における子育て支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○多様な保育・子育て支援サービスの充実 や子育て支援人材の育成 ○子育てが家庭の経済的負担の軽減 <p>(ウ) 職場における子育て支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○仕事と子育ての両立支援に向けた職場環境の整備促進 <p>② 働き方改革を推進し、ゆとりある生活の実現による少子化対策の推進</p> <p>(ア) 長時間労働の是正や専業主婦の働き方改革の推進</p> <p>(イ) 男性の家事・育児参加の促進</p>	<p>① 産業・地域経済の活性化</p> <p>(ア) 富山県の強みを活かした成長産業の育成</p> <p>(イ) 中小・小規模企業の振興</p> <p>(ウ) 企業立地等の促進</p> <p>(エ) 農林水産業の振興</p> <p>(オ) 環境・エネルギー産業の育成</p> <p>② 若者や女性が、せ、ぜと働ける魅力ある地域づくり</p> <p>(ア) 若者・女性の就業支援・県内定着の促進</p> <p>(イ) 高等教育機関の魅力向上</p> <p>(ウ) 地域の魅力創生</p> <p>③ 観光の振興</p> <p>(ア) 選ばれ続ける観光地づくり</p> <p>(イ) 富山のブランドカアップ</p> <p>④ 移住・定住の環境づくり、応援人口の創出・拡大等</p> <p>(ア) 移住・定住の環境づくり</p> <p>(イ) 応援人口の創出・拡大</p> <p>(ウ) 多様な形態を通じた地域企業への人材の展開・選流につながる取組み支援</p>	<p>① 若者や女性が輝いて働ける環境づくり</p> <p>(ア) 若者がチャレンジし活躍できる環境づくり</p> <p>(イ) 様々な分野で活躍できる女性人材育成</p> <p>(ウ) 女性の再就職支援</p> <p>② 高齢者等が能力を発揮して活躍できる社会の実現</p> <p>(ア) 元気な高齢者が活躍するための支援</p> <p>(イ) 誰もがいきいきと働き活躍できる場の創出</p> <p>③ 外国人材活躍の促進と多文化共生の地域づくり</p> <p>(ア) 外国人材活躍の促進</p> <p>(イ) 多文化共生の地域づくり</p> <p>④ 多様な人材の確保・育成と労働生産性の向上</p> <p>(ア) 多様な人材の確保</p> <p>(イ) ものづくり分野や観光分野などでの人材育成</p> <p>(ウ) 働き方改革を通じた労働生産性の向上</p> <p>(エ) 産業の集約化・集約化による交流促進と労働生産性の向上</p>	<p>① 交通ネットワーク整備と活力あるまちづくり</p> <p>(ア) 陸・海・空の交通基盤整備</p> <p>(イ) 快適で活力ある魅力的なまちづくり</p> <p>② 人生 100 年時代を見据えた人づくり</p> <p>(ア) 健康寿命の延伸</p> <p>(イ) 医療や福祉の充実</p> <p>(ウ) 教育力の向上</p> <p>(エ) 未来を拓く人材育成</p> <p>(イ) リカレント教育の推進</p> <p>(カ) 生涯にわたる学びの推進</p> <p>(キ) 「心の元氣」を醸成する文化の振興</p> <p>③ 持続可能で安心して暮らせる地域の環境づくり</p> <p>(ア) 豊かで快適な環境づくり</p> <p>(イ) 安全・安心の確保</p> <p>④ 豊かで魅力ある中山間地域の実現</p> <p>(ア) 地域コミュニティの活性化</p> <p>(イ) 地域経済の活性化</p> <p>(ウ) 住民生活に必要不可欠なサービスの確保</p>

(出典：富山県 第 2 期未来創生戦略)

(5) インパクトの特定

- **高品質な工業用ゴム製品の流通量拡大**
- **環境負荷軽減に向けた取り組みの強化**
- **全従業員が安心・安全に働き続けられる職場環境の構築**

(6) 特定したインパクトと富山第一銀行との方向性の確認

当社のバリューチェーン分析、インパクトマッピング、日本におけるニーズや富山県の富山未来創生戦略のニーズや方向性等を踏まえて、同社と特に関連性の高いインパクトを整理。特定したインパクトと富山第一銀行のサステナビリティ方針と方向性が同じであることを確認する。

今回特定したインパクトは「高品質な工業用ゴム製品の流通量拡大」「環境負荷軽減に向けた取り組みの強化」「全従業員が安心・安全に働き続けられる職場環境の構築」である。


富山第一銀行では、サステナビリティ方針のなかで、「1.地域経済の持続的な成長」「2.地域社会の持続的な発展」「3.環境保全」「4.健全な企業経営」の4点を、サステナビリティを巡るマテリアリティ（重点課題）としている。

「高品質な工業用ゴム製品の流通量拡大」では「1.地域経済の持続的な成長」「4.健全な企業経営」という観点で、「環境負荷軽減に向けた取り組みの強化」では「2.地域社会の持続的な発展」「3.環境保全」という観点で、「全従業員が安心・安全に働き続けられる職場環境の構築」では「4.健全な企業経営」の観点で方向性が一致する。

以上より、本ポジティブ・インパクト・ファイナンスに取り組むことで、環境問題や地域社会・経済を取り巻く課題に対して持続可能な社会の実現に貢献し得る資金の提供が可能となり、本ファイナンスを通じてSDGs達成に向けた取り組みの支援を目指す。

7. KPI の設定

● 高品質な工業用ゴム製品の流通量拡大

項目	内容
インパクトの種類	<ul style="list-style-type: none">・社会面におけるポジティブ・インパクトの拡大・経済面におけるポジティブ・インパクトの拡大
インパクトカテゴリー	<ul style="list-style-type: none">・「住居」「包括的で健全な経済」
関連する SDGs	 
対応方針	<ul style="list-style-type: none">・全国を対象として、建築・建材分野における当社部品の流通量拡大を図る
KPI	<ul style="list-style-type: none">・2026年7月期までの毎期、建築・建材部門売上高を前期比3%以上増加させる (2023年7月期 建築・建材部門売上高…1,626百万円)

● 環境負荷軽減に向けた取り組みの強化

項目	内容
インパクトの種類	・ 環境面におけるネガティブ・インパクトの抑制
インパクトカテゴリー	・ 「気候」「廃棄物」
関連する SDGs	 
対応方針	・ 当社が掲げる品質・環境方針に基づき、環境負荷軽減に資する各種取り組みの強化を図る
KPI	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2024 年 7 月期中に CO2 排出量削減目標を設定し、2025 年 7 月期以降は設定した目標に基づき排出量削減に取り組む ・ 2026 年 7 月期までに、原材料として使用するゴムの総量に対する廃棄ゴムの割合を 2023 年 7 月期比 2%（約 70～80t 相当）削減する（2023 年 7 月期実績値…19.7%）

● 全従業員が安心・安全に働き続けられる職場環境の構築

項目	内容
インパクトの種類	<ul style="list-style-type: none"> ・社会面におけるポジティブ・インパクトの拡大 ・社会面におけるネガティブ・インパクトの抑制
インパクトカテゴリー	<ul style="list-style-type: none"> ・「雇用」
関連する SDGs	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>8 働きがいも経済成長も</p> </div> </div>
対応方針	<ul style="list-style-type: none"> ・安全衛生、人材育成に資する取り組みの更なる充実を図る
KPI	<ul style="list-style-type: none"> ・労働災害撲滅に向けて研修内容の充実等を図り、労働災害の発生件数を0とする ・2026年7月期までに、女性役職員（管理職等）を3名登用する（現時点での女性役職員は0名）

8. 管理体制とモニタリング

(1) インパクトの管理体制

当社は、代表取締役社長の米屋様を中心にサステナビリティに関する方針・施策の決定や、重要課題（マテリアリティ）の検討、推進、進捗状況のレビューなどを行っている。

本件におけるインパクトについては、上野様が中心となり、管理・KPI 達成に向けた施策を実施する。

最高責任者	代表取締役社長 米屋 慎一
管理責任者	総務部 次長代理 上野 雅人
管理部署	総務部

(2) モニタリング方法

本ポジティブ・インパクト・ファイナンスで設定した KPI の達成及び進捗状況については、富山第一銀行と当社で定期的に面談の場を設け、共有する。本面談は少なくとも年 1 回実施するほか、日頃の情報交換や営業活動の場等を通じて実施する。

富山第一銀行からは、KPI 達成に必要な資金およびその他ノウハウの提供あるいは富山第一銀行の持つネットワークから外部資源とマッチングすることで、KPI 達成をサポートする。

モニタリング期間中に達成した KPI に関しては、達成後もその水準を維持していることを確認する。なお、経営環境の変化などにより、KPI を変更する必要がある場合は、富山第一銀行と当社が協議の上再設定を検討する。

注意事項・免責事項

1. 本評価書は、富山第一銀行が北星ゴム工業株式会社から提供された情報や独自に収集した情報に基づく現時点での計画又は状況に対する評価で、将来におけるポジティブな成果を保証するものではありません。
2. 富山第一銀行は、本評価書を利用したことにより発生するいかなる費用または損害について、一切責任を負いません。

● 本件に関するお問い合わせ先

株式会社富山第一銀行

法人事業部 コンサルティングチーム

〒930-8630

富山市西町5番1号（TOYAMA キラリ 7F）

TEL (076) 461-3871